

事業報告書（令和元年度）

事業名 国際交流壁画共同制作による国際理解教育

団体名 岡山市立岡山後楽館中学校 国際理解部 担当者名 石原 公子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

（1）「SDGs 講演会」の開催

- ・令和元年 5 月 29 日（水） 岡山後楽館中学校大講義室 全校生徒 231 名
- ・講師；岡山市教育委員会学校教育部指導課 梶原健介指導副主査
岡山県 ESD 推進課 小西美紀主任
- ・SDGs の目的や概要を梶原指導副主査からお話しいただき、小西主任からは自己の体験談に基づいたお話をしていただくことができた。

（2）岡山市の「自慢できること」アンケートの実施

- ・令和元年 5 月 本校 全校生徒 231 名
- ・ブルガリアの第 18 総合学校と同一内容でアンケートを実施した。

（3）壁画デザインの募集

- ・令和元年 6 月 25 日（火）～7 月 19 日（金） 本校 全校生徒
- ・共通テーマ「11 住み続けられるまちづくりを」に沿ったデザインを募集した。

（4）スカイプでの交流①

- ・令和元年 7 月 9 日（火） 本校 国際理解部生徒 16 名 生徒会執行部 4 名
- ・岡山市とソフィア市のそれぞれのよいところを発表した。



(様式第8号)

(5) スカイプでの交流②

- ・令和元年11月12日(火) 本校 国際理解部生徒12名
- ・ソフィア市の観光地、歴史について説明を受けた。



(6) デザインの作成

- ・令和元年11月中 美術の授業 全校生徒231名
- ・壁画デザインを美術部が集約し下書きを作成。
- ・思いを込めて一人一筆ずつ色を塗っていった。裏に自分の名前をサインした。



(7) デザインの完成と全校生徒への披露

- ・令和元年11月20日(水) 本校 全校生徒231名
- ・本校担当部分の壁画を完成させ、全校生徒にお披露目した。



(8) アートマイルでの協働学習

- ・令和元年11月下旬～12月初旬 本校 国際理解部生徒16名
- ・「アートマイル国際協働学習プロジェクト」で共通テーマ「11 住み続けられるまちづくりを」についてそれぞれ学習してきた。フォーラムの中でそれぞれの学校の生徒の意見を集約し、写真を添付しメールで意見交換した。
- ・環境問題、温暖化対策、より自分たちが誇れる街にするために必要なことを話し合い、ポスターにまとめて、郵送した。



(9) スカイプでの交流③

- ・令和元年12月20日(金) 本校 国際理解部生徒16名
- ・クリスマスという行事を通して文化交流をした。



(10) デザインの完成と全校生徒への披露

- ・令和2年2月27日(木) 本校 全校生徒231名(代表33名)
- ・第18総合学校が残り半分を作成し、完成させた共同作品を全校集会で生徒会執行部による説明後、披露する予定だったが、昨今の新型コロナウイルスへの対策として、特に深く関わった生徒会執行部、美術部、国際理解部のみの鑑賞、写真撮影となった。



(11) アートマイル事務局への壁画の送付

- ・令和2年2月27日(木)送付

(12) 今後の予定

- ・全校生徒への壁画の披露
- ・3月以降、掲示にて。ブルガリア第18総合学校とともに考えたメッセージと壁画に込めた意味を掲示。

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

- ブルガリア第18総合学校と共同で壁画制作を行ったが、共通テーマのSDGs「11 住み続けられるまちづくりを」に基づき、壁画デザインのテーマが「これからも守っていききたい故郷の宝物」をオリジナルテーマとして定め、デザインを考えたり、活動したりすることができた。
- 国際理解部では、「11 住み続けられるまちづくりを」に基づいて、岡山市の良いところ、問題点を挙げ、世界に訴えたいメッセージをポスターとして作成した。また、ブルガリア第18総合学校も同様にし、インターネット上で考えを共有した。
- 総合的な学習の時間の課題解決学習の中で、自分のテーマと調べ発表する内容がSDGsのどの項目に当てはまるのかを考え、持続可能な社会の実現に向け、社会の中で自分が果たすべき役割を認識できるように見直した。

3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

- 国際理解部のメンバーがスカイプで交流する活動が、第18総合学校との関係を深める効果を生んだ。活動を通して、全校で取り組む交流活動の核に国際理解部の活動が位置づいていることが確認できた。

- ソフィアと岡山の相互の街の特色をスカイプで話すことで、ブルガリアの文化や歴史を理解することができた。併せて、岡山の良さを紹介することを通して、岡山の文化や歴史を再確認することができた。
- 「SDGs 講演会」を開催したことをきっかけとし、これまで海外に興味を持っていた生徒が自分の進路を確定した。今後、海外で働くことを目標に英語力を高め、高等学校を選択することになった。
- 自国、地元など自分中心の考えから、ブルガリアをはじめ幅広い視野で物事を見たり考えたりすることができるようになった。

4. 今後の課題と展望

- 今回のアートマイル協働学習プロジェクトは、完成した壁画を東京オリンピック・パラリンピックの会場に展示し、選手を応援する目的で作成したが、今後ともブルガリアと日本の架け橋となれるよう、様々な方法で継続した交流活動を行っていきたい。